

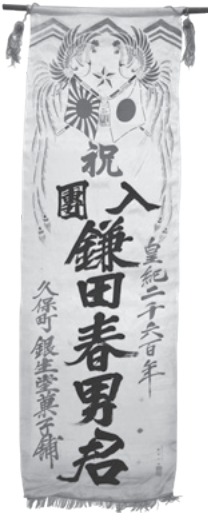
# 「戦中・戦後の川越の歩み」

◇会期 7月14日(土)～9月2日(日)

川越市立博物館では、平成二年に開館して以来、川越市や周辺地域の方から、多くの貴重な資料を寄贈・寄託いただいています。当館では、これらの資料を広く公開する場として、毎年、収蔵品展を開催しています。

今回の収蔵品展では、「戦中・戦後の川越の歩み」と題して、主に昭和二十年に終戦した太平洋戦争の時代を対象に展示を行います。この時代、出征した兵士や、銃後(※)の地域の人々がどのような境遇に置かれたのかを振り返ります。

この戦争では、全国で約三〇〇万人が亡くなりました。左の写真は出征戦(のぼり)で、出征兵士を出した家では、このような戦をたくさん掲げて、兵士を送り出しました。戦争で苦労したのは、戦地に行った兵士だけでなく、それを送り出した地域社会の人たちも、食料の配給や軍需工場への動員などにより、物資不足のなかで多くの制約をうける市民生活を送りました。



右の写真は、昭和二十年の福原国民学校(現在の福原小学校)の日誌です。空襲警報がひんぱんに鳴り、そのため授業が中止になったり、天皇によるいわゆる玉音放送が行われた八月十五日のことも記されています。

今回の収蔵品展では、これらの資料から、当時の人々の苦難を振り返り、平和な時代に生きる尊さを考える機会となれば幸いです。

博物館 TEL 222-5399

※銃後とは、直接戦闘に参加していない国内・国民。

## 給食で使用する自慢の川越産!!

～川越産野菜の紹介～

今回紹介するのは

# なす



川越市マスコットキャラクターときも

## 新鮮なおいしい なす を見分けるポイント



なすは原産地がインドと言われていますが、日本でも千年以上前から栽培され、様々な料理に使われています。日本では古くからぬか漬けとして食べられていますが、糠に多く含まれているビタミンB<sub>1</sub>をなすがたくさん吸収するので、これからの暑い季節へ向けて、夏バテ予防や疲労回復にうってつけの一品です。

なすは果肉の密度が低くスポンジ状なので、油をよく吸います。煮物などにする場合も、一度高温でさっと揚げると旨みが出る上、色の変化も抑えられます。

学校給食では夏からの旬に合わせて、川越で収穫されたなすを「マーボなす」や「夏野菜カレー」などで使用します。ご家庭でも取り入れてみてはいかがでしょうか。

### ☆なすの保存方法☆

なすは暑い時期に採れる野菜なので、冷蔵庫に入れておくことで低温障害を起こしやすく、硬くなり傷みも早くなります。

水分が逃げないように1個ずつラップか新聞紙に包んで袋に入れて冷暗所に保存し、なるべく早く使うようにしましょう。

# 知って得文化財

第39回

このコーナーでは、子どもたちにわがまち川越のことを知ってほしいとの思いから、川越の文化財をわかりやすく紹介します。

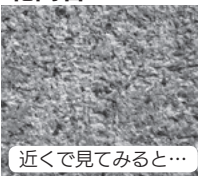
## 「川越に運ばれた石 江戸～明治時代」

長い年月の風雨や重さに耐え、火にも強い硬い石。昔は建物の材料の一部として使うことが多かったのですが、今は少なくなってしまいました。大きな石のとれなかった川越でも今なお残る歴史的な建物をよく見るといろいろな石が使われていることがわかります。これらの石は、いったいどこから運ばれたものなのでしょう。どのような石が使われているのかみてみましょう。

### 花崗岩 マグマが地下の深い所でゆっくりと固まった石

石をつくる鉱物の粒(結晶)が大きいことが特徴です。白色のものが多く、なかには淡い桃色のものもあります。江戸時代は、神社の鳥居、明治時代は神社の灯籠や蔵造りの前の塀(仲町・山崎家袖蔵)などに使われていました。石のとれた場所は、白色は茨城県(中央部)、桃色は瀬戸内海沿岸(岡山県～兵庫県)と推定されます。

花崗岩



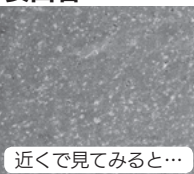
近くで見ると...



小仙波・日枝神社の鳥居(江戸時代末期)



安山岩



近くで見ると...

小仙波・喜多院・松平大和守家廟所(江戸時代後期)

※ただ今修理中のため見学できません。

### 安山岩 マグマが地表に出て急に固まった石

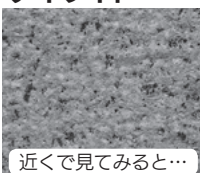
灰色をしていることが多く、ごま塩おにぎりのごまのように鉱物の粒が目立つ石です。代表的なものは、川越藩主・松平大和守家の廟所(お墓)の石で、神奈川県真鶴町でとれた本小松石が使われています。硬い安山岩は他にも寺や神社の建物を支える石(礎石)に使われています。

### デイサイト マグマが地表に出て急に固まった安山岩に似た石

安山岩よりもシリカという成分が少し多いため白っぽく、加工しやすい石です。代表的なものは、川越氷川神社の石の柵(玉垣)です。石の成分を調べたところ、神奈川県湯河原町鍛冶屋でとれた白丁場石であることがわかりました※。この石は、日本銀行本店本館など日本を代表する明治時代の大きな建物に使われています。

(※神奈川県立生命の星・地球博物館・山下浩之学芸員による分析)

デイサイト



近くで見ると...



宮下町・川越氷川神社の玉垣(明治35年)

凝灰岩



近くで見ると...

### 凝灰岩 火山からふき出た灰が降り積もって固まった石

灰で出来ているため、近くで見てもわからないほど粒が小さな石です。熱によって緑色に変化したものが多く、加工しやすいやわらかい石です。代表的なものは、元町2丁目・六塚稲荷神社本殿基壇(台の部分)の石です。別の小石が混ざった薄緑色の石が多く使われています。石のとれた場所は、伊豆半島が有力です。

凝灰岩には他に、熱いガスと重さのために硬くなったもの(溶結凝灰岩)や海の流れによって再び灰が砂などといっしょに積もったものなどがあります。石の塀や柵、建物の基礎などに使われています。

元町2丁目・六塚稲荷神社本殿基壇(江戸時代後期)

#### 石のふるさと

大きな石のとれなかった川越には、江戸(東京)と同じように箱根や真鶴、伊豆半島から多くの石が運ばれたと考えられます。ところが明治時代も終りころになると鉄道によって石を大量に運ぶようになり、大谷石(栃木県)など他の石を多く使うようになります。使われる石は時代によって変わるので、石は時代を知る手がかりとなります。

Q.江戸時代や明治時代、川越にどうやって石を運んでいたのでしょうか?

江戸時代は馬車や人力車、明治時代は鉄道で運ばれていました。

☆大切な文化財です。マナーを守って静かに見学しましょう。